

麦産地におけるスマート技術を活用した栽培体系の検証(鈴鹿市、亀山市)

麦類

取組主体：三重県スマート水田農業コンソーシアム

取組年度：令和元年～

キーワード：営農管理ツール、自動操舵、センシング

1 産地の概要

<産地の現状・課題>

【現状】

- ・小麦の平均単収 316kg/10a(三重県:305kg/10a、全国:362kg/10a)
- ・大麦の平均単収 251kg/10a(三重県:276kg/10a、全国:224kg/10a)

【課題】

- ・狭小ほ場による非効率な麦生産
対象地域の水田は9割以上が30a区画となっており、担い手は作業の効率化を図るため、合筆大区画化に取り組んでいる。
- ・適期作業
大規模に麦作に取り組む担い手が増えたが、労働力の確保が進まず限られた労働力で作業に取り組んでいるため、作業の遅れが散見される。
- ・肥培管理
麦類の増収には適期に追肥が必要となるが、労働力不足等の理由から追肥が難しい担い手がいる。

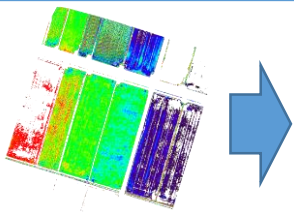
2 検討体制

<構成員と役割>

- ・鈴鹿農業協同組合(受託者部会の運営、検証支援)
- ・株式会社東海近畿クボタ(検証機械の調達)
- ・東海物産株式会社(役務の提供)
- ・全農みえ(試験肥料提供、検証支援)
- ・三重県農業協同組合中央会(会計、JA支援)
- ・三重県(鈴鹿普及センター、研究所:検証支援 農産園芸課:事務局)



自動操舵システムを備えた高速汎用播種機



ドローン測量(高低差の可視化)

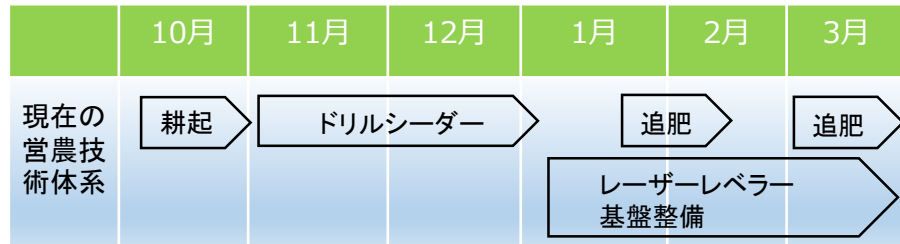


簡易な基盤整備(合筆～均平化)

3 新たな営農技術体系への転換

<目指す産地像>

ほ場の大区画化を進めるとともに、ドローンセンシングや生育センサーによる生育診断等を行い、生産効率を改善することで、労働力不足を克服し、発展できる産地



- ①深耕体系(自動操舵+高速汎用播種)
- ②ドローンによる簡易測量
- ③生育センサーによる生育診断に基づく緩効性肥料の活用



<新たな営農技術体系の効果(検証結果)>

- ・播種作業時間
:【現状】26.8分/10a→20.8分/10a(自動操舵+高速播種) <<約2割↓>>
- ・追肥作業時間
:【現状】0.22時間/10a→0.20時間/10a <<約1割↓>>

問い合わせ先:農産園芸課 水田農業振興班 TEL:059-224-2547